

〔 編 集 後 記 〕

今回、自身としては2回目の本誌編集後記担当となりました。実際の編集に関しては編集委員長の瀧口正樹教授のご尽力、事務局の高橋さんのご協力により順調に進んでおります。本号も症例が1編、千葉医学会奨励賞が3編、学会記録3編、猪之鼻奨学会研究報告書4編、open access paperの要旨が1編、英文原著1編と盛りだくさんの内容となっています。碓井彰大先生は当科の同門であり、関連病院の1つであるとちぎメディカルセンターしもつがでの腹腔内異物による肉芽腫の症例を報告しています。一般病院の診療の中においてもこのように貴重な症例に出会い、その経験を論文にまとめることは極めて貴重であり、医学の原点だと思えます。また、鈴木敏夫先生、吉永尚紀先生、河野健太君の3名は第9回千葉医学会奨励賞を受賞された内容に関する総説であり、鈴木先生は超高齢化社会において極めて重要な課題である難治性呼吸器疾患における血管病変とその再生機構に関する研究に関し、判りやすく概説され、さらに今後の治療可能性を再生医療の観点から紹介して頂いております。吉永先生は社交不安症に対する認知行動療法に関する総説であり、薬物療法のみならず、認知行動療法の重要性について、その取り組み、成果、今後の普及促進について明確に述べられています。2016年10月に本学医学部附属病院に清水栄司教授をセンター長とする本邦初めての認知行動療法センターが開設されました。非常にタイムリーな受賞となりました。河野君は乾癬の病態におけるサイトカインシグナルの役割に関する概説であり、新たなマウスモデル開発により基礎的検討が可能となり、IL-21の重要性が示され、解明できていない部分についても明確に紹介されています。いずれも千葉医学会奨励賞に相応しい立派な受賞論文でありました。臨床研修例会は初期臨床研修医の発表であり、第6回目のこの会の要旨集であります。指

導医による指導の下、立派な症例報告が数多く見られました。前述した碓井先生の症例報告の様に是非とも論文として、できれば本誌に投稿して頂き、この貴重な発表を完結してもらいたいと思います。呼吸器外科、泌尿器科の例会についても非常に活発に研究発表が多数なされており、千葉医学の底力をふつふつと感じます。

猪之鼻奨学会研究報告は平成28年度に補助金を授与された千葉県がんセンターの末永雄介先生、千葉大学泌尿器科の五島悠介先生、同じく分子腫瘍学の松坂恵介先生、薬学研究院の畠山治人先生の4名からの報告書であり、それぞれCrisper/Cas9システムを用いたゲノム編集の手法による小細胞肺癌の解析、前立腺癌における癌抑制型クラスター micro RNAによる新規治療標的の探索、EBV感染によるエピゲノム改変機構の解明、免疫チェックポイント阻害剤の作用機序解明といずれも現在の癌研究の最先端のトピックスに関連する研究であり、順調に進捗しており今後の進展がたいへん楽しみです。菅野真彦先生のOAP要旨は白蓋形成不全に対する寛骨臼回転骨切り術の成績の報告であり、15年という長期の成績を検討されており、非常に貴重な論文となっています。最後にこの論文の英語原著が掲載されています。

本誌もPubMed Central収載へ向け英語化、投稿規定などの変更が今年の総会にて承認され、英文誌の雑誌名がChiba Medical Journal、和文誌が千葉医学、ローマ字表記Chiba Igakuと決定されました。今後ますます発展し、世界へ千葉からの情報発信を目指しています。今回、編集後記を担当し改めて千葉医学雑誌の内容にそのすばらしさを実感しています。是非とも、会員皆様の積極的な投稿により、さらに素晴らしい雑誌として発展できるようご支援のほど、よろしく願い申し上げます。

(編集委員 松原久裕)